

《事業概要》

- 事業名 インタープリター養成講座 in ログコテージふりーたいむ
- 日程 平成19年11月6日～11月8日 午前8時から午後6時30分 雨天決行
- 会場 ログコテージ ふりーたいむ
(住所：〒377-1612 嬭恋村大前細原 1572 TEL0279-80-6000)
- 対象 嬭恋村の自然を愛する16歳以上の自然案内・啓蒙活動、野外活動に興味のある健康な男女
- 参加人数 参加者18名(内招待者2名)、スタッフ12名、来賓1名
- 取得資格 嬭恋村インタープリター・リーダー、CONEリーダー
- 主催 嬭恋村インタープリター会
- 協催 嬭恋村観光協会、オーライ！ニッポン会議
- 協賛 群馬県、嬭恋村
- 協力 吾妻広域西部消防署嬭恋分署

●講座1. 自然の理解 (3時間)

講師：唐沢孝一

プロフィール： 自然観察大学副学長 埼玉大学教育学部講師 都市鳥研究会代表 日本鳥学会評議員など



当会のインタープリター養成講座チラシにも、「インタープリターとは、自然からのメッセージを皆様に解りやすくお伝えし…」と書いてある。解説者としてインタープリテーションするためには理論的に説明するための体系的な理解が必要なのだと、一般的な学校教育を受けた者なら誰もがそう思っているであろう。むしろ、有名大学を卒業した者ほど、そこに陥りがちである。しかし、その体系とは一体なんなのだろうか。所詮、人間程度が現代の科学技術レベルで理屈をこね回し、合理的にデザインしただけのものであり、陥った側の人もさすがにそれが宇宙の真理を捉えているとは誰も思っていない。唐沢講師の講義資料、「ま～るい緑の山手線」には、以下のように書いてある。

“……人間という動物は、自然をあるがままに観察するというよりも、より理解しやすいイメージやデザインに置き換えて頭脳に取り入れようとする。だから、皆が同じようなイメージを抱けば、世の中が同じように見えているに過ぎない…自然科学の分野は、より客観的な事実を積み重ねて成立しているように見える。しかし、その根本にあるものは、より合理的であると判断されたデザイン(理論)は受け入れられ、不合理と判断されれば受け入れられないに過ぎない……宇宙や地球の誕生も、生物の進化も、究極のところいかに合理的なデザインを描いているか否かが取捨選択の基準になっている……”

嬭恋と千葉、国技館…長い歴史をたどるとこれらのことが繋がってくる。物事には歴史があり、その過程をたどらなくては背景にある深い部分が見えてこない…というお話からスタート。何も知らないと何が起きているかもわからないのは確かだが、知識があるからそれが邪魔して見えなくなることもある。自然のあるがまま、そのままをよーく観てほしい…のお話を第一部、そして第二部ではホソミオツネトンボなどの写真を通して、自然観察の面白さを熱く語ってくださった。また、駄洒落を入れるタイミングも絶妙で、こんなにお話の上手な先生は滅多にいない。講義の間笑いが耐えなく、初日の第一講、緊張していた参加者も程よくリラックスできたのではないだろうか。唐沢様は日本を代表するナチュラルリストであり、郷土嬭恋の誇りである。

●講座 2. 白根火山の話と地元学のすすめ（2 時間）

講師：下谷昌幸

プロフィール：

元嬭恋高校教師。トヨタ財団第 1 回身近な自然を見つめよう研究コンクール金賞「白根火山」著者



下谷講師は、「白根火山」編集後、現在でもたびたび湯釜の調査に出かけているという。ご自分の足で現地を駆けずり回って実験調査しまくっている、まさに現場たたき上げの人。背骨は厚い。

今回も名書「白根火山」を参加者全員

にご配布いただいたほか、即インタープリテーションに使える解説ネタを要約した 17 ページもの資料をご用意くださった。また、嬭恋村内の地名の由来もいろいろとお話してくださいました。「こっちの嬭だから恋しいんでしょう？こっちの妻じゃあ、恋しくないでしょう？…昔の嬭恋村の人たちは、粋だったんだねえ。」のセリフには、男性陣は腹を抱えての大爆笑だった（女性陣は苦笑い…）。また、昨年同様、「四阿山、吾妻川、浅間高原、産業遺跡…嬭恋村にあるさまざまな重要な自然遺産・文化遺産がまだ詳しく調査されていない。それら手付かずのものをぜひ若い皆さんが掘り下げて調査し、次の世代へ伝えていってほしい。」と結んだ。

●講座 3. 登山基礎講座（2 時間）

講師：大島義夫

プロフィール： 当会受託事業担当理事 登山家 山岳倶楽部あすなる会会長 どんぐり山の会代表など



当会に対してのインタープリテーション依頼状況は、登山ガイド、トレッキングガイドが大半を占めている。未熟な登山ガイドが事故を誘発する問題がクローズアップされる中、当会の受託事業担当である大島理事が講義を担当した。

「登山術を学ぶということは、安全対策を学ぶということです。」とスタート。登山ウェアは綿素材は厳禁、オーバーブラウスは危険なので厳禁、靴下はしわにせず伸ばして履く、ストックは使わないような若い人でもレスキュー用具として装備は必要、落石の際は「ラーク」と声をかける、接触事故を避けるために前の人との距離をとる事…もし事故が起こったら距離をとらなかつた後ろの人が悪い、勾配のある登山道では上り優先…譲る側は山側にザックを向ける、ザックの選び方…そして 30%は容量を残しておく、水分補給について、単独登山は避ける…などなど、具体的な安全対策についていろいろ説明した後、登山装備表チェック、山の用語、登山計画書、100 名山についてなどのお話をした。このような猛者が受託事業を担当しているのは大変心強い限りである。

●講座 4. 対象となる参加者の事を知る、ネイチャーゲーム（2 時間）

●講座 5. 自然体験活動の理念（1 時間）

講師：国田裕子

プロフィール：CONE トレーナー 日本ネイチャーゲーム協会公認トレーナー
森林インストラクター [キミ子方式絵画] 講師など



当会のインタープリター養成講座は、CONE 指導者認定講座とするために、当初から CONE トレーナー（ネイチャーゲームトレーナー）の国田講師に監修していただき、講座を実施している。インタープリターというとにかく解説に偏りすぎるきらいがあるが、「まず体験が第一」をモットーにしている国田講師が監修し指導していただくことで、ネイチャーゲームを通して参加者が「感じる」や「わかちあう」などのエッセンスを味わい感じてほしいと思っている。その願いが通じたのか、参加者の目は最も輝いていたように見えた。今回は自己紹介&準備体操、葉っぱのじゃんけん、目隠しをしてのゲーム、サウンドマップ、リーダーとしての挨拶の練習、CONE についての説明などをしていただいた。

●講座 6. 自然体験活動の基礎技術（1 時間）

●講座 7. 自然体験活動の指導法（2 時間）

●講座 8. プログラムの作り方（1 時間）

講師：笛木京子

プロフィール：環境省環境カウンセラー、プロジェクト・ワイルド上級講師、
プロジェクト・ラーニング・ツリー上級講師、環境腹話術師など



講座 6～8 は、自然体験活動インタープリターとして現場レベルで最も具体的な講義タイトルであるが、これらの講義を一人で行うことは非常に厳しい。ここは群馬県きってのナチュラルリスト、笛木講師の出番である。しかし、前回の養成講座で同様の内容でなんなくこなしていたので、安心してお任せしている。またワークショップ形式を取り入れる講義を行うのは笛木講師だけなので、その点でもこの講座に多様性を待たせることができる。実施したアクティビティは、集めた葉っぱの穴を顔で真似してみたり、プロジェクト・ワイルドで食う食われるの関係を考えてみたり、生き物を探しに出かけてみたりとさまざま。「アクティビティ中、指導者として不適当なことをたくさんしますのでそれを探し当ててください。」という講義手法はすごい。最後の、いろいろな小物がみんな木製品だったことにはみんな驚き。さらにそれを使って環境教育を実施するには…など、頭をたっぷりと使う講義となった。

●講座 9. 安全対策（1）普通救命講習（3 時間）

講師：吾妻広域消防署孺恋分署



今回は、17人で依頼していたところ、急遽2名キャンセルとなり、15人の講習となった。そのためか15人に対し4人の消防署員が指導してくださったことで、例年よりも念入りに学習することができたように思う。AEDの取り扱い方法も講習に含まれていた。今回初めて見る救命機器もあり、技術の進歩を感じる。最初に応急手当講習テキストが配布され、終了時に普通救命講習終了証が配布された。

●講座 10. 安全対策（2）現場の応急手当術（1 時間）

講師：小林勝三

プロフィール：元海上自衛隊衛生員、隊員の健康管理、医療に従事。準看護師、あんまマッサージ指圧師、鍼灸師。現在孺恋村にて浅間治療室を開業



当会の養成講座における安全対策では、普通救命講習で心配蘇生法を学び、それでは足りない現場の応急手当術を、救護担当である小林副会長が指導している。講義内容は救急用品について、止血法、骨折の処置、脱臼・捻挫について等の講義の後、実際に副木の使い方、三角巾の使い方、包帯の使い方、ティピングのやり方など、まさに現場の応急手当術を学習した。大島理事も手伝っての講義となったが、この講義は最も重要な内容なので、今後交流登山等イベントの際に、たびたび指導していただくことになっている。

●講座 11. 人と自然、社会、文化の関わり（3 時間） 孺恋村の信仰と文化（要旨）

講師：松島栄治

プロフィール：考古学者 元孺恋村郷土資料館館長 群馬県文化財保護審議会会長 鎌原村発掘調査など



松島イズムここにあり。「説得力」で、この先生に敵う方を見たことが無い。「人と自然、社会、文化の関わり」というタイトルで講義していただくにあたり、これほど相応しい先生はいないだろう。松島先生こそミスター孺恋村インタープリターである。講義内容は以下の通り。

I、はじめに

- 1、孺恋村の歴史意識
- 2、僻地史観の裏側
- 3、克服したい僻地史観

II、熊四郎岩陰の礫石経

- 1、“礫石経”の発見
- 2、礫石経とは
- 3、熊四郎岩陰の礫石経

III、修験道と万座山

- 1、修験道とは
- 2、万座山について
- 3、熊四郎岩陰の礫石経

IV、孺恋村と修験道信仰

- 1、吾妻山と白山修験
- 2、熊野神社の奥ノ印
- 3、今宮白山権現
- 4、三原出土の経筒

V、下屋氏の地域支配

- 1、孺恋村の古代から中世へ
- 2、下屋氏による地域支配
- 3、孺恋村の修験道支配の背景

VI、浅間山の信仰

- 1、従一位浅間大明神
- 2、別当延命寺
- 3、延命寺の発掘



★今回の講座で 15 名が新たに孺恋村インタープリター・リーダーの資格を取得し、住田副会長の点呼の下、小林副会長から認定証が授与された。これで当会が認める 21 時間のインタープリター（リーダー）養成講座を受講した人数は 73 名（内退会者 3 名）となり、CONE 登録者は合計 49 名となった。

★本講座は現在のところ損益分岐点が 25 名前後となっているため、群馬県「一郷一学」の補助金を受けないで実施するのは大変厳しい状況です。2 年連続で同様の事業に補助金を適応するのは異例に近いらしく、群馬県吾妻県民局の皆様には深く御礼を申し上げます。

《担当者所感》

今回は当初、申し込み時にインタープリターデータベース登録シートを提出しなくてはならない…と、申込者のハードルをやや高く設けたため、なかなか申し込み者が集まらず、事務局は焦り奔走した。印刷したチラシ枚数はフルカラーで 5,500 枚、一枚 12 円なので、チラシ代だけで 66,000 円の経費が掛かっている。また、頼みの綱の PPC 広告は群馬県のと調整がうまく行かず、予定よりも 2 週間遅く広告を打つことになった。アンケートに間違いがなければこの広告で 3 名の申込者を得たことになっているが、これもさらに 1 ヶ月早く打つことができたら、もしかしたらもう 3 名の受講者を獲得できたかもしれない。さらに先に述べた、インタープリター登録を必須とする失敗がなければ、あわせて最大 10 名ほどの損失があったのではないかと、少し当講座の人気を過大に評価しているかもしれないが、本当にそんな気がしている。それほど、講師の個性が多様で豊かで、しかもバランスの取れた良い講座であると自負している。

先ほど損益分岐点が 25 名前後になっているとは書いたものの、この料金で CONE リーダー養成講座をやっているところは、まず無いであろう。それは、講師の皆様はずいぶんご無理をお願いしているということと、私たちが有給の事務職員を持たず、熱血の志を持ってボランティアで行っているからできる離れ業なのだ。孺恋村で 16 名の講座申し込みがあったのなら、東京でこの講座を同条件でやれば 160 名ではきかないだろう。

先日、とある NGO 団体が聞き取り取材に見えた際、インタープリター養成講座のことをお聞きになった。そのとき、「これから、私たちのインタープリター養成講座のとりうる道は二つあります。一つは、受講料金をこのまま維持し、インターネットや PPC 広告を駆使して全国から受講者を募集し実施する道、もう一つはなかなか参加してくれない地元の方々のために受講料金を落とし、全て講義講師は会員自らが行き、いつ人材が育つかもわからなくとも、地域密着型で気長にやっていく道です。」と、私は話した。しかし、現実的には孺恋村民の所得状況は低く、また地元の自然に関心がある人はすこぶる少ない。さらにそれを来村者へ宣伝していこうという人材となると、見つけ出すのは極めて難しい。今回、5,500 枚のチラシばら撒きを行なったにもかかわらず、受講者の中に生粋の孺恋人は見当たらなかった。取材では「どちらかという、後者のほうを選ぶでしょうね。」と言ったものの、自然を好きにさせることからの人材育成はさすがに熱血の志を持ってしても付き合いきれないだろう。

それにしても、アンケートによると今回の参加者の多くはメルマガを含めたインターネット関連で当講座を知り、申し込んできたことになっている。全国的には近年、自然体験イベントも人数が集まらず、参加者集めにヒイヒイ言っていると聞いている。その中で、群馬県の補助金の交付があったことと、一昨年からホームページ対策を十分に施していたことで最悪の事態は免れた。…というか、自然体験の分野でもインターネットマーケティング力を持つかどうか勝ち組と負け組の分かれ目になるのは明らかとなった。世のナチュラルリスト達よ、自分はインテリジェンスであると公言自負していたはず。ところで SEOSEM 対策はできているか？

しかしそんな厳しい競争社会の風当たりとは無関係に、今日も孺恋では爽やかな高原の風がそよぎ、いい年した大人たちが持続可能な理想社会を求めて野山を駆け回っている夢実現の会、「孺恋村インタープリター会」が活動している。この村を囲む 2,000m 級の山々は両腕をいっぱい伸ばし、私たちががちり抱きかかえて危険から護ってくれている。だから明日もそんなに損することは、どうせあんまり無いだろう。